

甘南備山散策

日時	令和5年3月3日(金)
集合	JR京田辺駅 10:00
行先	JR京田辺駅から 甘南備山 を経て JR松井山手駅へ
参加者	7名
天候	晴れ
10:10 ~ 10:15	JR京田辺駅から棚倉孫神社へ
10:20 ~ 10:45	酬恩庵一休寺を通り薪神社へ
10:55 ~ 11:20	甘南備山芝生広場へ
11:30 ~ 12:00	甘南備山展望台へ(昼食)
12:30 ~ 12:50	甘南備山頂上(神南備神社)をへて三角点へ
12:50 ~ 13:10	三角点周辺(花木の森)を散策
13:10 ~ 14:30	JR松井山手駅へ JR松井山手駅で解散

好天に恵まれ、JR京田辺駅から甘南備山を経てJR松井山手駅まで、のんびりとハイキングを楽しみました。

甘南備山は、京田辺市にある標高221mの低山で、神の宿る山＝かんなび、と呼ばれ、古くから付近の人々に信仰され親しまれてきた山です。平安京が定められる時、甘南備山と京都市内の船岡山を結ぶ直線上に平安京の中心朱雀大路がおかれました。

1. JR京田辺駅から棚倉孫神社(たなくらひこじんじゃ)へ

JR京田辺駅から京田辺市図書館の横を通り、棚倉孫神社へ向かいました。

棚倉孫神社は、社伝によると、推古天皇31年(623年)に相楽郡棚倉之荘から勧請されたとされています。『延喜式神名帳(927年完成)』では大社に列格しています。江戸時代には「天満宮」と呼ばれており、昭和6年(1931年)に2郷社に列格されました。また、隔年祭の瑞饋神輿の氏子地域巡行が有名で、境内には瑞饋神輿が展示されていました。



棚倉孫神社



棚倉孫神社の瑞饋神輿

2. 棚倉神社から酬恩庵一休寺を通り薪神社へ

棚倉神社から住宅地を、酬恩庵一休寺を通り薪神社へ向かいました。

酬恩庵一休寺は、頓智で知られる一休禅師が晩年を過ごしたお寺で、お墓が境内の一角にあります。一休寺は自然と環境科では一度訪問したことがあるので、今回は素通りしました。

薪神社は、一休寺の近くにあり、山門前には「薪能金春芝跡」という碑が建っていました。また、境内には「能楽発祥の地の石碑」がありました。金春禅竹は、室町時代の能役者・能作者で、能楽の大成者世阿弥の娘婿で、世阿弥の能を発展させ金春流隆盛を固めた人です。



一休寺参道



薪神社



薪神社境内の能楽発祥の碑

3. 薪神社から甘南備山芝生広場へ

薪神社から田圃の中にある道を甘南備山登山口のすぐ上にある芝生広場へ向かいました。



甘南備山登山口へ



甘南備山



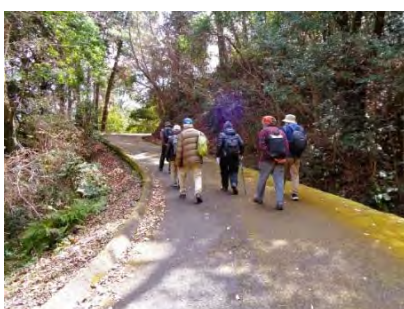
芝生広場

4. 芝生広場から甘南備山展望台へ

芝生広場から管理道を甘南備山頂上の近くにある展望台へ向かいました。

途中には、甘南備山で親しまれている「タマミズキの自然木」が数本あり、例年1月から3月初めまで赤い実がいっぱいになっています、今年は、1月から赤い実はほとんど見られず、今回は、残念ながら全く見られませんでした。

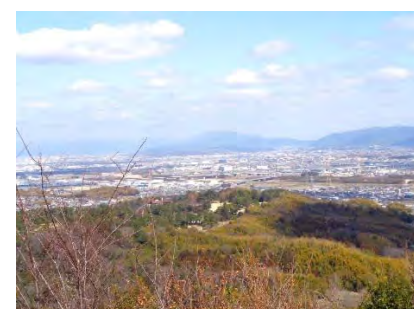
展望台からは、京都市内が一望でき、比叡山・愛宕山・鷲峰山も見られました。



管理道を展望台へ



展望台から比叡山方面を見る



展望台から京都方面を見る



甘南備山頂上にて

5. 展望台から神南備神社（甘南備山頂上）をへて三角点

展望台から神南備神社（甘南備山頂上）をへて三角点へ向かいました。

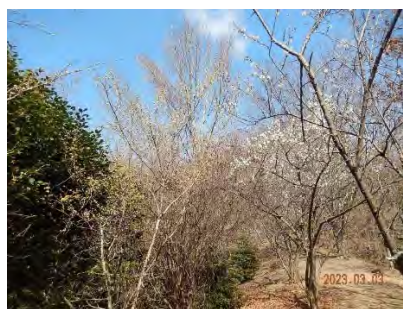
甘南備山は、「神南備」「神無火」などとも言われ、「神が鎮座する山」「神が降臨する山」として信仰の対象となっていました。山頂付近には、延喜式内社の一つである**神南備神社**が鎮座しています。

三角点は、頂上から600m程度離れた所にあります。平安京が定められる時、三角点の直下にある岩と、京都市内の船岡山を結ぶ直線上に平安京の中心朱雀大路がおかれたと言われています。

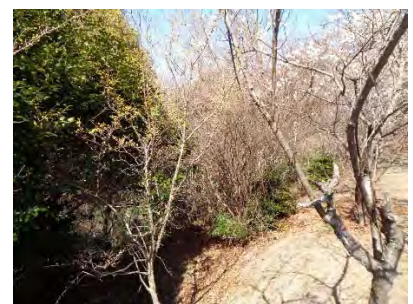
また、三角点の付近に花木の森があり、例年3月上旬には、梅の花とサンシュユの花が咲き乱れています。今回は、梅もサンシュユも咲き始めの状況でした。



神南備神社



花木の森



花木の森

6. 三角点からJR松井山手へ

三角点から尾根沿いに松井山手駅へ向かい、JR松井山手駅で解散しました。



自然と環境科 甘南備山花木の森 2023.3.3

甘南備山花木の森にて



工程地図

写真 加藤・樋口

文責 樋口